

2.1 – The Beurs, (アムステルダム)



Address:

Beurs van Berlage
Damrak 277,

1012 ZJ Amsterdam - Holland

Task:

ブールス・ファン・ベルラーヘ

(現在は、会合、催し物、展示会の会場、
文化センターなどに使用されている)

Architect:

ヘンドリック・ペトルス・ベルラーヘ

(1856- 1934)

Year of construction:

1898-1903

ブールスは、建築家ベルラーヘにとって初の大仕事で、これによりベルラーヘの名前が世界に知れ渡った。

「メインホールは、銅、コーヒー、綿など商品取引だけでなく、大規模なパーティーや政治的な行事の会場としても使用されていた。色(特に青と黄色)、素材(煉瓦、砂岩、御影石、鉄、木材)そして建築様式との調和がとれているため、室内にいると非常にくつろいだ気持ちになる。

高さ22mのレンガの壁と多数のアーチの間には認識できるほどの張力がかかっているため、それを支えなければならない。屋根には、二重ガラスが嵌め込まれている。所々にLambertus Zijlが制作した彫刻が飾られており、バルコニーには商業神マーキュリー(盗賊神)がある。このメインホールは、実質的に初期の状態が保たれており、ブールスの中で最も感銘を覚える場所と言える。現在は、パーティー、政治的な会合、展示会など大掛かりな催し物の会場として使用されている」



メインホール



商業神マーキュリー (メインホール)



暗渠の細部



More: www.beursvanberlage.nl

2.2 –世界自然保護基金(WWF) (ザイスト)



Address:

Driebergseweg 10
3708 JB Zeist - Holland

Task:

オフィス、既存建物の修復

Architect:

ラウ建築事務所(アムステルダム)

Year of construction:

1954. 2006 (修復)

ラウ建築事務所が建設した WWF のメインオフィスビルは、世界で最も優れた煉瓦建築を評価する第 3 回ブリックアワードで特別賞を受賞した。セラミックシングルを使用していることに加えて、総合的な設計コンセプトや耐久性が評価されて、今回の受賞につながった。

以下は、RAU 建築事務所によるプロジェクトの説明

「当事務所は、WWF の既存建物を、環境を壊さず利用可能なオフィスに建て替える。

WWF オランダ支部は、新オフィスに転入し、また、かつての農業試験場は自給自足が可能で、CO2 をまったく排出しないエネルギー効率の高い建物に生まれ変わる。

全オランダ人の 18 人に 1 人以上が、WWF の自然保護活動を全面的に支持している。活動の一環として、簡単な方法でも省エネ、自然保護が実現できることを実証している。

試験場は 1954 年から Driebergseweg (ザイスト) に近い自然保護区スクノードに存在していたが、この簡素で、無機質かつ温かみのない建物はまったく使われていなかった。そのため、建物の骨組みを維持し、瓦礫を再利用し、温かみを加えることにより建物の機能を復活させることが決まった。同時に、土壌を自然の状態に戻すことになった。湿度を一定に保つ土の天井の中に埋め込む細いガラス管を通して継続的に空気を循環させることにより、人間と機械の熱を拡散させ、さらに冷却処理も行う。木製の水平ブラインドを通して、必要な光を最大限まで採り込めるようにする。素材については、環境に悪影響はないか、子供が作業しても危険ではないかなどの点について精査し、選別する。また言うまでもないが、「鳥に優しい屋根瓦」、「蝙蝠用の地下室」など野生生物のことを考えて建設する



北側(ピロティーの上に会議室がある)



中央の「ブロップ」にあるアトリウム



正面の外観



More: www.rau.eu, www.wnf.nl, http://www.nextroom.at/building_article.php?building_id=28979&article_id=25627

2.3 –定住型持続可能集合住宅(クレンボルフ)



Address:

Lodewijk van Deyssehof 19
4103 WK Culemborg - Holland

Task:

住宅、軽工業施設、オフィス

Architect:

ヨアヒム エブレ

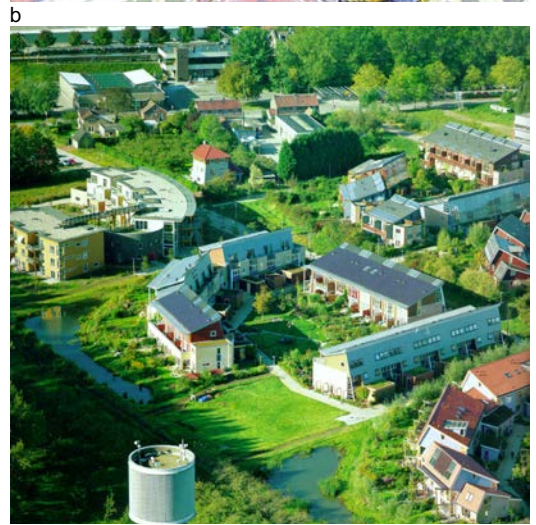
Year of construction:

1998年から

定住型持続可能集合住宅は、オランダ住宅・国土計画・環境省 (VROM) による持続可能都市開発のモデルプロジェクトで、クレンボルフ自治体と民間基金EVA(教育・情報・アドバイス(オランダ))が開発を行う。開発区域(面積: 24ha)の特徴は建物との調和のとれた田園都市で、緑の庭園、雨水処理エリア、公園などがある中に建物を建設する。広場や景観構造の大部分は、住民組織が共同で管理・開発する。住宅ソーラーコートヤード(図a、b、c)も建設する予定である。本プロジェクトでは、アーバンエコロジーから持続可能な建物までを一体化した設計アプローチを提案する。

利用

住宅エリア、多目的エリア、軽工業施設・オフィス、景観を伴うレクリエーション用中央緑化ゾーン、広場などの中には、環境に配慮したインフラ(様々な設計が施されたゾーンがあるパーマカルチャー設備)も収容する。インフラの例には、個人用庭園・中庭、集中的に利用される緑化広場、幅広く利用される緑化スペース、自然ゾーン、都市農園(環境に配慮した農業と都市を一体化させるコンセプト)などがある。



エネルギーのコンセプト

高エネルギー基準 - 開発区域の暖房: エネルギーは、基本的に洗浄水から取得するが、太陽光エネルギー(太陽光発電パネル、集光熱パネル、温室など)、風力エネルギーの利用、熱ポンプ、排水から生成されるバイオガスにより稼働する熱電併給設備が設置されたエリアなどで補う。

水のコンセプト: 水の循環(水保全区に設置した極めて厳密に水のコンセプトに対応する設備 > 雨水浸透貯留 > 汚染度の低い排水を廃水処理湿地設備に送る > 排水を処理し、バイオガスの生成に利用する)

More: www.eva-lanxmeer.nl, www.livingmachines.com (Worrell Water Technologies' Living Machine® システムは、生きた植物と益微生物を利用して、排水を清浄水にする)

持続可能インプラント(EVAセンターに統合)内の持続可能集合住宅開発区域において各種水を処理し、それを次の段階に流すスキーム(オランダ、クレンボルフ)

LTH/HTC: 「低温暖房と高温冷房」

(出典: http://www.enhr2007rotterdam.nl/documents/W19_paper_Timmeren_Kaptein_Sidler.pdf)